

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】令和 2 年 12 月 10 日 (2020.12.10)

【公表番号】特表 2019-535348 (P2019-535348A)

【公表日】令和 1 年 12 月 12 日 (2019.12.12)

【年通号数】公開・登録公報 2019-050

【出願番号】特願 2019-517967 (P2019-517967)

【国際特許分類】

A 4 4 C 5/14 (2006.01)

G 0 4 B 37/16 (2006.01)

【F I】

A 4 4 C 5/14 J

G 0 4 B 37/16 Q

【手続補正書】

【提出日】令和 2 年 10 月 29 日 (2020.10.29)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

一対の連結具 (10) を備える腕時計ストラップ連結具 (10) であって、
各連結具は本体 (12) を有し、それぞれの前記本体は腕時計ケース (39) の一方の側面に係合するように適合された第 1 の端部 (27) を有し、

それぞれの前記本体は、前記第 1 の端部の反対側にある第 2 の端部 (25) を有し、

それぞれの前記本体は、前記本体の一対の対向する側壁 (18) の間に延在する上面 (13) 及び下面 (17) を有し、

それぞれの前記本体は、前記本体の前記第 2 の端部にある第 1 の開口部 (14) から前記本体の前記下面にある第 2 の開口部 (30) まで前記本体を通して延在する時計バンド通路 (28) を有し、

それぞれの前記本体は、前記一対の対向する側壁のうちの第 1 の側壁の中に形成された第 1 の穴 (22) を前記時計バンド通路内に有し、

それぞれの前記第 1 の穴は、前記一対の対向する側壁のうちの第 2 の側壁の中に形成された第 2 の穴 (22) に対応する位置にあり、

前記一対の連結具のそれぞれは、それぞれの第 1 の穴及び第 2 の穴と係合する対向する端部を有するそれぞれのバネ棒 (20) と係合可能であり、

前記一対の連結具のそれぞれは、ツーピース時計バンド (24) の一方の部品と、2 つの部品のそれぞれの対応する連結端がそれぞれのバネ棒に係合することによって係合可能であり、

前記一対の連結具のそれぞれはさらに、前記一対の連結具のうちの第 1 の連結具の前記第 1 の開口部から前記時計バンド通路を通して前記第 2 の開口部まで、前記一対の連結具のうちの前記第 1 の連結具の前記第 2 の開口部から第 2 の連結具の前記第 2 の開口部まで、及び前記一対の連結具のうちの前記第 2 の連結具の前記第 2 の開口部から前記第 2 の連結具の前記時計バンド通路を通して前記第 2 の連結具の前記第 1 の開口部まで延在する曲がりくねった経路に沿って、シングルピース時計バンドを配置することにより前記シングルピース時計バンド (32) と係合可能であり、

前記一対の対向する側壁のうちの前記第 1 の側壁には、第 1 の凹状表面 (15) まで後

退した第 1 の溝 (1 6) があり、前記第 1 の溝は前記第 1 の開口部から前記第 1 の穴との第 1 の交点まで延在し、

前記一对の対向する側壁のうちの前記第 2 の側壁には、第 2 の凹状表面 (1 5) まで後退した第 2 の溝 (1 6) があり、前記第 2 の溝は前記第 1 の開口部から前記第 2 の穴との第 2 の交点まで延在し、

前記第 1 の溝は、前記第 2 の側壁の中に後退した前記第 2 の溝に対して、前記第 1 の側壁の対応する位置にあり、

前記第 1 の溝の前記第 1 の凹状表面と前記第 2 の溝の前記第 2 の凹状表面との間の距離は、前記第 1 の凹状表面と前記第 2 の凹状表面との間の前記距離 (D 1) が最も広い前記第 1 の開口部に隣接した部分から、前記第 1 の凹状表面と前記第 2 の凹状表面との間の前記距離 (D 2) がより狭い前記第 1 の穴及び前記第 2 の穴のそれぞれに隣接した部分に向かってテーパリングし、

これにより、前記第 1 の凹状表面と前記第 2 の凹状表面との間の前記距離の前記テーパリングは、前記バネ棒が前記第 1 の穴及び前記第 2 の穴に向かって並進する間に前記バネ棒の突出部を圧縮すると共に、対向する端部で前記第 1 の溝及び前記第 2 の溝の中に係合するように圧縮経路を画定する、腕時計ストラップ連結具。

【請求項 2】

前記時計バンド通路の前記第 1 の穴及び前記第 2 の穴に隣接した第 2 の部分であって、前記時計バンド通路の前記第 1 の開口部に隣接した第 1 の部分より高い、第 2 の部分と、前記ツーピース時計バンドを形成する前記 2 つの部品のそれぞれの対応する連結端のそれぞれの係合の拡張部分であって、対応するバネ棒と係合しながら、前記時計バンド通路の高い方の前記第 2 の部分の中に前記連結端の第 3 の係合を同時に形成する、拡張部分とをさらに備える、請求項 1 に記載の腕時計ストラップ連結具。

【請求項 3】

前記第 1 の穴および前記第 2 の穴を取り囲む前記対向する側壁のそれぞれの中に後退した同心円環状の凹部 (2 3) をさらに備え、前記同心円環状の凹部は、前記バネ棒の端部でフランジ (2 1 A) を受け入れるように動作可能である、請求項 1 に記載の腕時計ストラップ連結具。

【請求項 4】

それぞれの前記本体のそれぞれの前記第 1 の端部は、前記第 1 の端部に軸路 (3 3) を有することにより、前記腕時計ケースへの前記係合に適合しており、前記軸路は、そこを通過して前記腕時計ケースのラグ (3 7) に係合するピンを配置できる大きさである、請求項 1 に記載の腕時計ストラップ連結具。

【請求項 5】

それぞれの前記本体のそれぞれの前記第 1 の端部は、前記第 1 の端部に軸路 (3 3) を有することにより、前記腕時計ケースへの前記係合に適合しており、前記軸路は、そこを通過して前記腕時計ケースのラグ (3 7) に係合するピンを配置できる大きさである、請求項 2 に記載の腕時計ストラップ連結具。

【請求項 6】

それぞれの前記本体のそれぞれの前記第 1 の端部は、前記第 1 の端部に軸路 (3 3) を有することにより、前記腕時計ケースへの前記係合に適合しており、前記軸路は、そこを通過して前記腕時計ケースのラグ (3 7) に係合するピンを配置できる大きさである、請求項 3 に記載の腕時計ストラップ連結具。

【請求項 7】

一对の連結具 (1 0) を備える腕時計ストラップ連結具 (1 0) であって、各連結具は本体 (1 2) を有し、それぞれの前記本体は腕時計ケース (3 9) の一方の側面に係合するように適合された第 1 の端部 (2 7) を有し、それぞれの前記本体は、前記第 1 の端部の反対側にある第 2 の端部 (2 5) を有し、それぞれの前記本体は、前記本体の一对の対向する側壁 (1 8) の間に延在する上面 (1 3) 及び下面 (1 7) を有し、

それぞれの前記本体は、前記本体の前記第 2 の端部にある第 1 の開口部 (1 4) の間で前記本体の前記下面にある第 2 の開口部 (3 0) まで前記本体を通して延在する時計バンド通路 (2 8) を有し、

それぞれの前記本体は、前記一对の対向する側壁のうちの第 1 の側壁の中に形成された第 1 の穴 (2 2) を前記時計バンド通路内に有し、

それぞれの前記第 1 の穴は、前記一对の対向する側壁のうちの第 2 の側壁の中に形成された第 2 の穴 (2 2) に対応する位置にあり、

前記一对の連結具のそれぞれは、それぞれの第 1 の穴及び第 2 の穴と係合する対向する端部を有するそれぞれのパネ棒 (2 0) と係合可能であり、

前記一对の連結具のそれぞれは、ツーピース時計バンド (2 4) の一方の部品と、2 つの部品のそれぞれの対応する連結端がそれぞれのパネ棒に係合することによって係合可能であり、

前記一对の連結具のそれぞれはさらに、前記一对の連結具のうちの第 1 の連結具の前記第 1 の開口部から前記時計バンド通路を通して前記第 2 の開口部まで、前記一对の連結具のうちの前記第 1 の連結具の前記第 2 の開口部から第 2 の連結具の前記第 2 の開口部まで、及び前記一对の連結具のうちの前記第 2 の連結具の前記第 2 の開口部から前記第 2 の連結具の前記時計バンド通路を通して前記第 2 の連結具の前記第 1 の開口部まで延在する曲がりくねった経路に沿って、シングルピース時計バンドを配置することにより前記シングルピース時計バンド (3 2) と係合可能であり、

前記第 1 の穴及び前記第 2 の穴に隣接した前記時計バンド通路の第 2 の部分は、前記第 1 の開口部に隣接した前記時計バンド通路の第 1 の部分より高く、

前記ツーピース時計バンドを形成する前記 2 つの部品のそれぞれの対応する連結端のそれぞれの係合の拡張部分は、対応するパネ棒と係合しながら、前記時計バンド通路の高い方の前記第 2 の部分の中に前記連結端の第 3 の係合を同時に形成する、腕時計ストラップ連結具。

【請求項 8】

前記一对の対向する側壁のうちの前記第 1 の側壁には、第 1 の凹状表面 (1 5) まで後退した第 1 の溝 (1 6) があり、前記第 1 の溝は前記第 1 の開口部から前記第 1 の穴との第 1 の交点まで延在し、

前記一对の対向する側壁のうちの前記第 2 の側壁には、第 2 の凹状表面 (1 5) まで後退した第 2 の溝 (1 6) があり、前記第 2 の溝は前記第 1 の開口部から前記第 2 の穴との第 2 の交点まで延在し、

前記第 1 の溝は、前記第 2 の側壁の中に後退した前記第 2 の溝に対して、前記第 1 の側壁の対応する位置にあり、

前記第 1 の溝の前記第 1 の凹状表面と前記第 2 の溝の前記第 2 の凹状表面との間の距離は、前記第 1 の凹状表面と前記第 2 の凹状表面との間の前記距離 (D 1) が最も広い前記第 1 の開口部に隣接した部分から、前記第 1 の凹状表面と前記第 2 の凹状表面との間の前記距離 (D 2) がより狭い前記第 1 の穴及び前記第 2 の穴のそれぞれに隣接した部分に向かってテーパリングし、

これにより、前記第 1 の凹状表面と前記第 2 の凹状表面との間の前記距離の前記テーパリングは、前記パネ棒が前記第 1 の穴及び前記第 2 の穴に向かって並進する間に前記パネ棒の突出部を圧縮すると共に、対向する端部で前記第 1 の溝及び前記第 2 の溝の中に係合するための圧縮経路を画定する、

請求項 7 に記載の腕時計ストラップ連結具。

【請求項 9】

前記第 1 の開口部に隣接する前記時計バンド通路の第 1 の部分よりも高い、前記第 1 の穴および前記第 2 の穴に隣接する前記時計バンド通路の第 2 の部分と、

前記時計バンド通路の高い方の前記第 2 の部分の中に連結端の第 3 の係合を同時に形成するそれぞれのパネ棒と係合するとともに、前記ツーピース時計バンドを形成するそれぞれの前記 2 つの部品のそれぞれの前記連結端の各係合の拡張部分と、

をさらに備える、請求項 8 に記載の腕時計ストラップ連結具。

【請求項 10】

それぞれの前記本体のそれぞれの前記第 1 の端部は、前記第 1 の端部に軸路 (33) を有することにより、前記腕時計ケースへの前記係合に適合しており、前記軸路は、そこを通過して前記腕時計ケースのラグ (37) に係合するピンを配置できる大きさである、請求項 7 に記載の腕時計ストラップ連結具。

【請求項 11】

それぞれの前記本体は、そのそれぞれの前記第 1 の端部において、前記第 1 の端部に軸路 (33) を有することにより、前記腕時計ケースへの前記係合に適合しており、前記軸路は、そこを通過して前記腕時計ケースのラグ (37) の間で係合するピンを配置できる大きさである、請求項 8 に記載の腕時計ストラップ連結具。

【請求項 12】

前記第 1 の穴および前記第 2 の穴を取り囲む前記対向する側壁のそれぞれの中に後退した同心円環状の凹部 (23) をさらに備え、前記同心円環状の凹部は、前記バネ棒の端部でフランジ (21A) を受け入れるように動作可能である、請求項 7 に記載の腕時計ストラップ連結具。